

# 街を行く

第115回 Stay Home

## 街に行けない(その3)

不謹慎かもしれませんが、そろそろ「コロナ」という言葉自体に飽き飽きしてきましたね。

今の時期は、最新で正確な情報を得ることが一番大切だとわかっているのですが、どのテレビ番組も同じ顔ぶれが「ステイホーム」と繰り返すばかりで、憶測や批判、不安や不信を募らせるだけでした。それでも感染者や死亡者が諸外国と比べ著しく少なかったのは、清潔な国民性と感染を防ぐ生活者の知恵の賜物でしょう。よく言われるのは玄関で靴を脱ぐ、手洗いを励行するという生活習慣ではないですか。トイレにペーパータオルやドライヤーが備わっている今どき、ハンカチを持ち歩く外国人の姿はあまり見ないですよ。一方で、距離を保つのは日本では物理的にむずかしそうです。そもそも国土が狭く、通勤電車をみる通り、人と人が一定の社会的距離を保てるインフラ環境がありません。どの施設も海外に比べサイズが小ぶりですからね。

ただし今後は“距離”を踏まえた街づくりも考えなければなりませんね。街はもともと暮らす場ですが、昨今は人に観せる街並みを意識しつつあります。さらに今後は、訪れる人が「安全だと信じられる」という項目も加わってくるかもしれません。

しかし、本来ならこれは本末転倒なのです！ 街はそもそも地域住民が満足した生活を送ればそれで良いわけですから。しかし、人からの評価がその街どころか国の優劣まで決めてしまうのが、日本の目指している「観光立国」の基本です。これをスローガンに経済



こうした状況下、渋沢栄一翁ならば何を考え行動するのだろうか(埼玉県常盤橋公園)

効果を見込み推進してきた政府は、いまの有様を織り込んでいなかったでしょう。行動が後手に回り迷走しているいま、本当に国民性に助けられています。どこかの大国とはまるで正反対です。

さて、制約されてきた日常生活様式のほとんどが6月19日から解禁となります。小生も来月号からは堂々と街を訪ねていこうと思っています。ですが、自分の頭の中で、どの様な形で回ればよいか迷っているのが正直なところです。まずは、コロナ対策が街にどのような影響を与えたか、そして、どの様な対策で乗り切ろうとしているのか。これは街というより業種によって違うと思いますが、あえて街という観点から見ていき

たいと思います。手始めにどこを訪ねるかはまだ決まっていません。しかし興味本位で訪ねることだけはいたしませんので、ご理解のほど。コロナから街を救うことが、「街を行く」の大きなキーワードになることは間違いありません。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。